

スマートフォンでペアレンタル・コントロールを 設定している親の特性

Characteristics of parents who have parental controls set up on their smartphones

水野 一成 近藤 勢津子 吉良 文夫
Kazunari Mizuno Kondo Setsuko Kira Fumio

NTT ドコモ モバイル社会研究所
NTT DOCOMO Mobile Society Research Institute

＜あらまし＞ スマートフォンを小中学生が安心・安全に利用する一つの手段として「ペアレンタル・コントロール」の利用が挙げられる。本稿はどのような親がペアレンタル・コントロールを利用しているか、子のスマホの利用時間の多寡と併せて特性を明らかにすることを、目的としている。数量化理論第Ⅱ類を用いて分析を行った結果、「子の学年」と「親のスキル」が大きく関係していることが明らかになった。

＜キーワード＞ スマホ、ペアレンタル・コントロール、ICT リテラシー

1. 研究背景及び目的

NTT ドコモ モバイル社会研究所では、2018 年以降毎年、小中学生がより安全で安心して ICT(Information and Communication Technology)機器を利用できるように、社会調査を通して、分析を行っている。調査結果では、スマートフォン（以下、スマホ）の所有開始年齢は年々低下傾向にあり、2022 年 11 月時点では 10.6 歳であった。子にスマホを持たせる時に、親はスマホの利用に対し、制限（ペアレンタル・コントロール）をかけることがある。ペアレンタル・コントロール・サービスの利用は、小学生は 74%とやや増加傾向であるのに対し、中学生は 57%とやや減少傾向である。子が安心・安全にスマホを利用するために助けとなりうるペアレンタル・コントロールを利用している親の特性は何であるか、本稿では子のスマホの利用多寡と併せて分析を行う。

2. 調査概要

調査時期：2022 年 11 月

調査対象：関東 1 都 6 県、

小中学生の親と子

調査方法：訪問留置調査

標本抽出法：QUOTA SAMPLING

性別(5 歳刻み)・学年・エリア・
都市規模で割付

回収数：600

分析対象：258(子がスマホを所有している)

3. 分析方法

1. ペアレンタル・コントロールの設定の有無及び子のスマホの利用時間の多寡で 4 つの群に分ける。

2. 各群を目的変数、親の属性・ICT 利活用状況・親子関係等を説明変数とし、数量化理論第Ⅱ類を用いて各群の特性の分析を行う。

4. 分析結果

ペアレンタル・コントロールを実施しているのは 64%であった。また子のスマホの利用時間は、小学生低学年で 1.5 時間、小学生高学年になると 1.8 時間、中学生では 2.4 時間であった。この結果を基に表 1 の通り、4 つの群に分け、これを目的変数とした。

表 1 目的変数

		スマホの利用時間	
		2時間以上	2時間未満
ペアレンタル・ コントロール	実施	1群：34%	2群：30%
	未実施	3群：19%	4群：17%

数量化理論第Ⅱ類を実施した結果、判別率の中心率は 88.9%、1 軸の相関比 $\eta^2=0.30$ 、2 軸の相関比 $\eta^2=0.14$ 、3 軸の相関比 $\eta^2=0.10$ であった。また各軸の寄与率は 1 軸 56.2%、2 軸 25.5%、3 軸 18.3%であり、本稿では 1 軸と 2 軸について説明する。

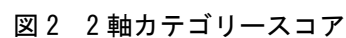
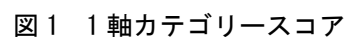
1 軸における各群の平均点及び判別グラフから 2 群（ペアレンタル・コントロール実施、スマホ低利用）と 3 群（ペアレンタル・コントロール未実施、スマホ高利用）を分けると解釈する。また 2 軸は 1 群（ペアレンタル・コ

表 2 で説明変数と各軸の偏相関係数を示す。両軸共通しているのは「子の性別」や「親の年齢」は偏相関係数が低く、目的変数との間の関係は低いことが確認できた。

	1軸		2軸	
アイテム名	偏相関係数		偏相関係数	
学年	0.34	1位	0.06	10位
ペアレント・コントロール設定で きるスキル	0.27	2位	0.18	1位
親のネット利用時間	0.21	3位	0.13	5位
母親の学歴	0.19	4位	0.13	6位
親と子がサイトの閲覧やネット動 画と一緒に見る	0.18	5位	0.10	9位
子がICTを利用することへの期待	0.18	6位	0.16	2位
子が家庭で一人過ごす時間	0.13	7位	0.11	8位
子がICTを利用することへの心配事	0.13	8位	0.16	3位
母親の年齢	0.12	9位	0.13	7位
親と子が一緒にいる時間	0.10	10位	0.16	4位
性別	0.04	11位	0.05	11位

続いて、2 軸の結果から 1 群（ペアレンタル・コントロール実施, スマホ高利用）と 4 群（ペアレンタル・コントロール未実施, スマホ低利用）の特性を確認する。カテゴリースコアが負の値が大きいほど 2 群の傾向, 正の値が大きいほど 3 群の傾向である。図 2 は偏相関係数が 0.15 以上の説明変数のカテゴリースコアを示している。「ペアレント・コントロールが設定できるスキル」が最も高く, 多く設定できると 1 群傾向であった。

ここでは学年が変化すると、各群の割合（図 3）がどのように変化するか、背景と共に考察を行う。小学生低学年は「未設定・低利



学年	設定 & 高利用	設定 & 低利用	未設定 & 高利用	未設定 & 低利用
小学低学年	27	27	6	39
小学高学年	30	49	10	11
中学生	38	20	27	14

参考文献

<https://www.mobaken.jp/project/children/>（参照日 2023.12.27）